

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2017 年 12 月 25 日	
派遣プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA <input checked="" type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	リヨン第二大学 大学 (国名: フランス)
所属学部・学科等名	
在籍身分	
留学期間	2016 年 8 月 31 日～ 2017 年 4 月 日

<b>1. 留学するまで</b>	
留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	元々留学したい気持ちを持って大学に入り、専攻がフランス文学であるため、フランスの大学に留学することを考えた。しかし、英語を同時に学びたい気持ちもあったので、英語での授業もあると期待してUSACプログラムを選択した。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	入学当時から留学を見据えていたため、語学の勉強に関しては常に意識していた。仏検は持っていたが、応募の前はイギリスの大学への留学も考えていたので、IELTSの準備に関しては応募の半年以上前からほんの少しずつだがこつこつ勉強していた。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	少しくらい努力しても行ってみて苦労するのが目に見えていたので、あまり力を入れて勉強していなかった。行ってみて感じたのは、とにかくできるだけ会話練習をして留学すべきだったということだった。

<b>2. 渡航について</b>	
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ
	ビザ申請先: フランス大使館
	提出書類: <a href="https://jp.ambafrance.org/IMG/pdf/visa_etudiant_jp.pdf?17456/16a13cd01e8aa1606bbfa90fcdca58f0eafeb4046b">https://jp.ambafrance.org/IMG/pdf/visa_etudiant_jp.pdf?17456/16a13cd01e8aa1606bbfa90fcdca58f0eafeb4046b</a>
	手続きに要した日数:
その他必要な事前手続き	キャンパス・フランスへの登録
出国年月日	2016 年 8 月 31 日
経路(往路)	
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有(期間: 内容: ) <input type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2017 年 4 月 日
経路(復路)	

## 3. 留学費用について

支出額	総額			円
	内訳	渡航費（往復）	14,000	
ビザ申請手数料		20,000		円
予防接種費用		0		円
保険料		100,000		円
教材費（授業料以外の学費）		10,000		円
宿舍費（住居費）		400,000		円
光熱費		0		円
食費		400,000		円
通信費（インターネット・携帯）		5,000		円
交通費（宿舍－大学間）		0		円
交際費		200,000		円
その他（ 費）				円
（ 費）			円	
（ 費）			円	

## 4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	リヨン第二大学では、相当の語学力が示せない場合留学生用の授業を受けることしかできない。USACではUSACの学生用の授業があり、そちらの方がレベルが高かった。その他は他のプログラムで来た留学生と混ざり、語学学校のようにフランス語の授業を何種類も受けた。一週間に12コマ×105分の授業だった。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	プログラムのHPなどでは授業の情報もほとんどわからないことがある。希望する大学に行った先輩を探し連絡を取って授業を選ぶのが大事。始まってみないと分からない部分も大きいので、細かい計画は立てずに、臨機応変に対応しなければならない。生活に慣れるためには会話能力が何より大事。話せるという自信が積極性を生むと思う。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など）	先生は日本よりかなりフレンドリーで、先生と学生の距離は近く感じた。発言を求められることが、日本とは比較にならない程多く、質問する学生も多いため、発言力が大事になる。慣れない授業形態で、さらに外国語なので初めはかなり苦労したが、いずれ慣れるためあまり心配する必要はない。ただ真面目に無難に返答するのではなく、自分が思うことを素直に言う、ということが大事だと感じた。

## 5. 生活等について

## (1) 留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（            ）		
住居の広さ	約            ㎡	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有（            人） <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（            ）		
住居費	1ヶ月当たり	（現地通貨）	約            円
留学先での住居全般に関するアドバイス	寮の部屋では附属するはずものが、無かったりするので、初めに主張してちゃんと必要なものを手に入れるべき。		

(2) 医療について	
保険の加入先	<input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他 (                    )
保険の補償内容	補償額 死亡                    円、 入院1日                    円 その他 (                    )
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 (種類:                    回数:                    医療機関名:                    ) <input checked="" type="checkbox"/> 無
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	病院に行っていないため分からない。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	フランスの場合は日本よりかなり乾燥するので、寝るときにマスクが必須だった。水の違いで、同じシャンプーでも使い物にならない場合がある。乾燥予防のボディクリームは肌が弱い人は自分に合うものを持っていく方が良い。
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
ほとんどないが、地域によっては深夜に通るのを避ける道もあった。あと、フランスではテロ対策のため不審な荷物があると、避難指示が出されることが数回あった。そのため、自分の荷物は忘れないように気をつけた。そして、ひとりの時は座席に荷物を置いたまま席を離れるというようなことはさけた。	
(4) 食生活についてのアドバイス	
食事が合わない場合、量が減り露骨に体調に影響を及ぼすので、高くても炊飯器を買うことをすすめる。都市の場合は日本の食材を買える場所はあると思う。人によっては、到着後一番大事なのは、美味しい店や料理を見つけることかもしれない。自分にとって一番きつかったのは食事だった。作る時間があるときはいいが、スーパーで買ってそのまま食べるようなものに関しては、好んで食べ続けられるようなものは見つからなかった。	
(5) 気候・服装についてのアドバイス	
真夏は経験していないが、冬は寒かった。洗濯が結構面倒だったので、下着類に関してはもっとたくさん持っていくべきだったと感じた。	
(5) 学内外の施設・設備環境について (インターネット環境含む)	
学内のインターネットも寮のインターネットも、広島大学と比べてかなり遅く不安定だった。	
(6) 現地学生や地域との交流について (どのような、機会・きっかけがありましたか?)	
現地の家庭で食事をする機会や、小学校で英語を教えるボランティアなどもあった。しかし全体的にはそれほど多いとは言えず、リヨン第三大学には日本語学科があるが、リヨン第二大学にはなかったため、日本語を学ぶフランス人を見つけるためには積極的に行動する必要がある。もう一つは、アメリカ人の友人を通して英語を学ぶフランス人と交流することはあった。いずれにせよ、提供されたものというより自分で見つけたものだった。	
(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
意見を言わないと意見が無いと思われる、ということは知っていたが、やはり積極的な発言が大事だということは強く感じた。外国ではとにかく日本の常識を忘れる必要があると思う。例えばフランス人は時間にルーズだったが、そういうことでいちいち苛立ってしまうと大変だろう。あと良くも悪くも自己主張は強いということもある。どういう違いも、自分がそれをどう見るかにかかっているので、頑固にならなければ何でも受け入れられると思う。	
(8) 日本から持っていくべきもの、持っていきべきでないもの	
持っていくべきもの お金、クレジットカード、電源の変圧器や変換器、人にあげられるような日本らしいもの (人によっては日本語の小説) 文法書 持っていきべきでないもの 大きな教科書	

## (9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

行ってみないと何も分からないので、そこはあまり心配せず、ただ聞く話す力をつけることを考えるべきだと思う。

## 6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2018 年 3 月 (当初の卒業予定年月 年 月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に )
現在の状況および今後の予定・進路等	外部大学院への進学
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	単位はできるだけ取っておけば、単位互換をあまり気にする必要がなくなる。 就活について考えると、半年以上の留学は可能なら2年時にすべきだと思うが、留学中に連絡をとり、帰国後面接を受けて問題なく就職できた人もいたので、方法はあると思う。

## 7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント

## 8. 後輩へのメッセージ

どんな生活をして、語学が伸びるのは間違いないので、自分を追い込まずに楽しむことが大事だと思う。ストイックになろうと、日本人とは一切話さないと決めるのは、却って出会いの幅を狭めることになるので、あまりおすすめしない。一緒に行動できる友達を一人見つけたら、行動の範囲が大きく広がると思う。大変なこともあるけど、行かなければよかったと言っている人は一人も知らないで、迷っている人はとりあえず行くべきだと思う。

## 9. 自由記述 (1,200 字程度)

もっと楽しめた、もっと学べた、という思いが強いかけれど、行ってよかったとは本当に思う。日本人の自分にとって、日本に住むということがどれだけ楽で簡単で心地いいものなのかということが実感できたのと同時に、それが全て良いわけじゃないということも分かった。もちろん逆に、外国に対して勝手に憧れて勝手に幻滅したような面もある。よく言われるが、外国に行けば日本のことも自分自身のことも以前よりわかるようになるものだと思った。

自分の能力をあげるのに手っ取り早い方法は旅行だということを、何度か感じる機会があった。留学先のリオンでは誰か助けてくれる人が必ずいて、語学の問題で困ったことがあっても人に頼ることができた。しかし、恋人がフランスに会いに来た時は、自分の慣れした親しんだリオンではなくパリで数泊したので、知らない場所で予約もその時々への対応も自分自身で行わなければならず、否が応でもフランス語を理解して伝えることが必要だった。準備のため恋人がくる前に、一人でパリに行き数日間歩き回って土地鑑をつけたり、何を買いたい時はどこに行けばいいのかというの、街の人に尋ねながら自分自身の目で見て確かめた。ここまでする必要はないのだが、自分だけじゃなく人に楽しんでもらうという時には、行動する気力がいつも以上に湧いてくるのでその機会を活かすべきだと思った。そして結果的に、何の問題もなく楽しい時間を過ごすことができた。

留学でいつも感じていたのは悔しさだった。言葉が理解できない時も、伝えられない時も、自分が思ったように伸びない時も、周りのより優秀な学生を見ると、自分が情けなく感じることはばかりだった。けど、こういう経験は日本ではできないことだった。大学内のせまい世界で、自分と他人を比べて満足したりしていたが、英語もフランス語もずっと自分よりできて、将来についてもしっかり考えているような留学生達と出会い、自己満足していた怠惰な自分を少しだけ変えることができるようになった。

自分が本当に何をしたいか考えた時、やはりフランスにもう一度行きたいと思った。そして、フランス文学をより深く知り、対等な立場で現地の学生と意見を交わしたいと思った。新しい環境に身を置いて初めて、自分が今の環境に満足しているのかどうか考えることができた。そして、外部の大学院に進むことを決めた。刺激を外に求めるのは違うという人もいるだろうが、自分にはそれが必要なことだと分かった。自分が成長していく方法を見つけることができたということが、留学の一番の成果だ。

注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます(氏名及び学生番号については、非公開とします)。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。

## 学習の概要

いかに勉強しても、初めはやはり会話のスピードに面食らうことになると思います。普段から例えばドラマなどを使って訓練していたのならともかく、授業の予習復習をしているだけじゃ、やはり生の会話の語彙やスピードに慣れるために時間がかかります。だから、そこはある程度仕方ないことだと捉えるしかありません。

授業で先生が何を言っているのか理解できないということが、やはり一番最初に直面する問題でした。言っていることが分からなければ、自分が発言することもできません。しかしこれに関しては、1ヶ月もすればある程度慣れることができます。それは使われる語彙が共通しているからです。私はフランス文学を専攻していたので、ある程度フランス語の文章を読む訓練をしてきました。だから、授業が理解できないときは大抵、知っている単語だけけどスピードについていけない、ということが原因でした。だからこそ慣れるのも早かったと思います。

授業は、学期始めに行われる語学テストによってクラス分けされた後で行われますが、クラスによってかなりレベルは違います。私は予想していたよりも一つ下のクラスでしたが、それでも授業は難しく感じられました。それは主に文法のせいではなくて、会話に慣れていなかったせいでした。授業はそれぞれ、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングと分けて行われますが、やはり苦戦したのはリスニングとスピーキングでした。しかしどの授業にも共通して言えることは、発言を求められることが多いということでした。分からない場面があるのは仕方がなかったもので、その際に恥ずかしがらずに聞き直したり、たどたどしくても自分の思っていることをちゃんと言うということが、クラスの中で自分の居場所を確保するために必要でした。こういった度胸が留学中は大事だと思います。授業が難しいと言いましたが、それは教えている内容が難しいということではなく、他の留学生が発言できる場面で、自分が発言できないことが多かったという意味です。

文学に関する授業を一つ取っていました。それがどの授業よりも難しく、最終的に単位を取ることを諦めてしまったのですが、この授業についていけなかったのも結局、発言できなかったということが原因でした。例えば一人だけ授業についていけない時に、先生がそれを理解し、言い直してもらったりすることができるかどうかは自分にかかっています。

学期末のテストに関してはそれほど難しくありませんでした。他の授業では何の問題もなく単位が取れました。しかし、同じ授業を取っているクラスメートの中でも、初めの授業と最後の授業で一番上達していたのは、一番積極的に発言する学生でした。予習がどう、復習がどう、という部分も重要ですが、私が留学全体を通して感じたのは、何より発言する度胸を持つということです。そしてそれが、自分の中で一番成長した部分でもあります。

## 生活の概要

リヨンと比較的に大きな街で、中心にあるショッピングモールに行けば日用品から贅沢品まで、欲しいものは何でも手に入ります。スーパーやパン屋さんも徒歩圏内に点在し、大学と寮を結ぶ道にも無数の店があります。スーパーでは野菜も果物も安価で買え、肉は日本とそれほど変わりませんが、自分で料理をする場合は概ね日本より安い値段で作ることができます。

しかし、外食は日本より高いです。ファーストフードのようなものは比較的安価で食べられますが、それ以外のレストランで食事をしようとする、1000円以内で食べられるようなところはほとんどありません。留学中は生活にそれほど余裕があるわけではなかったため、日本と同じ感覚で外食をするようなことはありませんでした。

お金の問題が重要だと思います。私の場合、クレジットカードを二種類持って行きましたが、一つはあまり使える店がなく、もう一つは上限が10万でキャッシングもその上限の中に含まれていましたので、旅行に行く時などはクレジットカードだけでは賄えませんでした。フランスに向かう際にある程度まとまったお金を円を持っていったのですが、それを使い切ってしまったため、前期と後期の間に遊びに来てくれた友人に頼んで、日本円を持ってきてもらいました。

やはり留学中は使えるクレジットカードを複数持って行き、何かあったときのためにある程度の現金も持って行くべきだと思います。クレジットカードの上限が来たために旅行の予定が取りやめになったこともありました。せっかくの留学中に手にできるチャンスを、お金の問題でキャンセルせざるを得なくなるという状況は本当に残念でした。フランスで口座を作る人もいましたが、多くの友人はクレジットカードに頼って生活していました。

治安については、ヨーロッパでスリにあった話などを聞いていたので初めは警戒していましたが、リヨンが比較的治安の良い街であるせいもあって、一度もそんな被害にあうことなく、ほとんど日本と同じような感覚で生活することができました。

食事の面について、付け加えます。私は、フランス料理を美味しいと感じていたのですが、やはり長期間滞在するうちに、どうしても日本食を食べたくなる時期が来ます。初め炊飯器を持っていなかったため、主食をパンにしましたが、白米と比べるとパン食に慣れていない私は、十分な量食べないことが増えていきました。そして体重も落ちました。自分がどういう食生活を送ることが必要かということは、各々によって求めるものが違うと思います。その国の食文化に対応できるかどうかということは、生活してみないと分かりません。やはりそういうとき、自分自身が自分の食べたいものを作れるかどうかということと、作るための材料をどこで買うことができるのかということ、留学開始後すぐに確認するべきだと思います。学習にはやはり体調が重要になりますが、それを一番左右するのが食生活であるということも、留学中に深く理解したことです。